



北スラウェシ 日本人会

NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

第5号

タルシウス

特集

太平洋戦争とBC級戦犯



1999年5月

北スラウェシ州日本人会

〈 会報 タルシウス 第5号 〉

— 特 集 —

太平洋戦争とB C級戦犯裁判

目 次

| | | |
|------------------|-------------|-----|
| ◇ はじめに | 川井 雄二 | 2 |
| ◇ B C級戦犯について | 川口 博康 | 4 |
| ◇ 朝日新聞記事 | | 6 |
| ◇ 秘録 大東亜戦史 蘭印編 | | 20 |
| ◇ セレベス戦記 | 奥村 明 | 45 |
| ◇ セレベス島 ミナハサへの道 | 片山 清 | 62 |
| ◇ 夜光虫 医師が見た大東亜戦争 | 福岡 良男 | 81 |
| ◇ 孤島の土となるとも | 岩川 隆 | 90 |
| ◇ その他の資料 | | 105 |

はじめに

川井 雄二

これは北スラウェシ州日本人会会報《タルシウス》第5号であります。従来、この会報と内容を異にし、『太平洋戦争とBC級戦犯』の特集と致しました。しかし、これは「〇〇〇に関する考察」とか「〇〇〇における研究」というような仰々しいものではなく、廃版になったり非売品であったりして入手困難な北スラウェシに関する参考資料を集めたものです。

約二十年前、私がインドネシアを旅した時は、まだ戦争当時を知る年代層が多く、私が日本人と知るといろいろ声を掛けられたものです。

「叔父さんを日本軍に殺された」「日本の兵隊にビンタされた」「バキャロー」しかし本当に日本人を憎む者は絶対に日本人に会おうとしませんでした。

逆に当時を懐かしがる人も大勢います。「ワタクシワ....」「イチニサン」「アリガト」とうら覚えの日本語で話しかけられたり、「マシロキフジノケダカサニ....」「ミヨトウカイノ....」の歌をよく聞かされたりしました。

「タカハシさんにお菓子を貰った」という類の話もよく聞きました。日本の兵隊も一人一人は善い人であることを彼らはよく知っています。

しかし戦後五十数年が過ぎ去った現在、こうした戦時中の話を聞く経験をする人は滅多にありません。

このマナドにおいても当時の様子を知る古老たちも年々少なくなっています。カラビアン飛行場跡やテイリン基地跡を見ようと、地元の人に尋ねても誰も知らないのです。

このマナドの地は日本軍の蘭印攻略の初戦時、パレンバンと共に落下傘部隊が活躍したという「神兵の伝説」はあまりにも有名で、隊長堀内中佐の逸話などの断片的知識も多くの人が耳にされていることと思いますが、その戦闘内容やその後の日本軍の活動内容となるとほとんど知る人がいないのが実情です。また、そのことに関して調べようと思っても、関連資料があまりありません。

実際、日本軍占領期の資料は、非常に少しか残存していません。それは、終戦後、日本国内と違い、インドネシアに連合軍が上陸してくるのがかなり遅かったため、日本軍が関係資料を大規模に焼却してしまったからです。日本軍の焼却から免れた資料も、その後4年間にわたるオランダとの独立戦争において、散逸したり、焦土作戦の中で焼滅したりしたのです。

その現在残っている資料でも、大部分はジャワ、スマトラに関するもので、スラウェシ島、特に北スラウェシに関する資料はほとんどありません。1993年、インドネシア史研究会発行の『日本占領期インドネシア年表』を見ても海軍地区の年表中、スラウェシに関する記事は主にマカッサルであり、マナドに関する記述は僅か数箇所しかありません。

こうした状況の中、軍人として、軍属として、記者として、戦争を実体験された方々が書かれた手記や回想録は、当時の様子を知る上で大変貴重な資料となります。第一次資料がない空白の間を、私たちにはこうした手記や回想録でしか埋めることができないのです。

今回ここに掲載した資料は全て日本側からのものです。
インドネシア側から見た日本占領期の様子は、下記の書籍が参考になります。
《ふたつの紅白旗ーインドネシア人が語る日本占領時代》 木犀社
インドネシア国立文書館〔編著〕 倉沢愛子：北野正徳〔訳〕

現在私の手元に、『ミナハサの歴史』というインドネシア語の本のコピーがあります。（『SEDJARAH MINAHASA』 TAULUH. M. 著 1951年発行）

ミナハサ人の先祖とされているトアールとルミムットの伝説に始まり、オランダ植民地時代、日本占領時代を経て、独立戦争までを著したものです。

これによると、日本占領期のミナハサ民衆の生活は悲惨で、困窮を極めたといえます。あらゆる物に課税され、宗教活動は制限された。労働しても契約通りの賃金はもらえない。日本軍は『強盗』と同じである、とさえ言っています。

この日本占領期の項は、機会がありましたら翻訳し発表したいと思います。また、この本の原本は、北スラウェシ国立博物館付属図書館にありますので、興味のある方は是非ご一読下さい。

冒頭でも触れましたが、この特集号では「資料の提供」ということを主目的としています。その活用方法は、会員の皆様各自に委ねたいと思います。

また、他に資料をお持ちの方は、編集部までご提供下さると幸甚です。太平洋戦争或いはBC級戦犯に関する皆様の所感、雑感などもお寄せ下さい。ある程度集まりましたら、特集第2弾として纏めたいと思います。

表紙の写真説明

ビトゥン地区のマネンボ・ネンボ (Manembo-Nembo)にある
元海軍軍人の慰霊碑。碑にはこう刻まれている。

| |
|---|
| 表：金真云鬼 風薫り雲は流れ海碧き南海のこの地君よ永遠に眠れ 裏：1987年10月15日 元海軍第十四期飛行専修予備学生 元山戦闘機隊建之 |
|---|

この慰霊碑に関して、建立の由来などご存じの方がありましたら
編集部までお知らせ下さい。

B C級戦犯について

川口 博康

私は仕事でフィリピン、インドネシア、南太平洋諸島を訪ねる機会が多くありました。いずれも第二次大戦の跡が生々しく残っている所が多く、そのつど凄まじい戦闘の残骸に胸を熱くしてきました。(戦艦、貨物船の無残な姿、トーチカの内部が火炎放射器で真っ黒に焼かれている跡、艦砲射撃の弾が洞窟の上に命中し生き埋めになった跡、海一空からの放火で島の形が変わってしまったところ等)

このミナハサの地にも当時駐屯されていた兵隊さんたちの生活のあとや記念の塔等に出会います。しかしイリアンジャヤや他の地方のような激戦の跡はどこにも見る事はできません。当時こちらに駐屯されていた方からのお話(天国と地獄)や私たちの会報でも当時の事が福岡氏や青木氏によって紹介され、また川井さんに見せて頂いた当時の新聞記事でもこの地が昔からすばらしい土地であったことを知りました。

今回の一連の騒動でも安全な場所として多くの人がジャワ-ジャカルタから避難して来た事実も目撃しており、また地元の人達もミナハサは安全ですと誇りをもって言っていましたので、ここは土地-人々ともに良い所-パラダイスに違いないと一人勝手にがってんし家まで作ってしまったのですが、今年になって当時こちらに駐在されていた村上氏から戦後メナード裁判で29名の方が戦犯として処刑-死刑になっていた事実を知らされました。

何故、オランダ軍や地元民とも戦闘をやっていないところでこんなにも多くの戦犯-死刑をだしたのか、という疑問が起きました。その後、B C級戦犯についての記事に出会い私の無知さからショックを受けましたので一部この地に関係したものを中心に紹介しておきたいと思います。

上坂冬子氏は「戦争が遠くなった今、敗戦から5-6年の間に慌ただしく行なわれた国際的報復の事実について知らない世代が社会の中堅となり知っている世代もはや忘れかけている。無知な人は学ぶべし、忘れた人は思い出すべきであろう。」と言っています。

私は本当に無知からB C級戦犯という裁判があったことは知っていましたがその内容は知りませんでした。私が疑問に思った事は以下の事です。

- 1 B C級戦犯について。
- 2 オランダ裁判とは。
- 3 オランダとの戦闘も比較的少なく、原住民との関係も比較的良好だったのに地元の人達から別れを惜しまれたという堀内大佐が何故復員後逮捕され、又この地に連れ戻され死刑にまでなったのか。

異文化の中で生活することがどんな事かおぼろげながら少しずつ身に染みて分かってきつつある今の私にとりましてB C級戦犯のことは多くの教訓となりました。B C級戦犯とサラリーマンが共通しているところは、国の為に戦ったのに何故日本人は彼らを戦犯として扱うのか。サラリーマンは会社のためによかれとやった事が何か事件があると会社は知らないという。

庇おうとはしないのか。組織とは組織の目的のために働いた人を称え庇わなければ組織と言えないのでは。ヤクザはそういう意味では立派と思う。国の為、会社のために戦った人を何故称えないのか。感謝と有難うとなぜ言えないのか。国の為に死んだ人のことに対して何もしない。おかしい。

渡辺—谷沢の対談の中で「武」なき社会に名誉なしと言っています。

現代日本の特徴は「恥じを知る」ということがなくなった。

武士社会における根本命題は、もし自分が恥ずかしい事に関与してしまった場合どう対処するかということです。つまり、恥ずかしいことをしたら腹を切る。

そうでなければ人間は武士ではなく町人であると――

敗戦から何故か日本人は責任を取る事を怖がり嫌がるようになった。敗戦の時、BC級戦犯の多くは自ら名乗り出て死刑になった人がたくさんいた。少なくともこの時までは恥じを知ることが責任をとるという観念が日本人に溢れていた――こういう人を見て日本人は称えた。

しかしBC級戦犯の扱いによって「自ら罪を背負って死んだ人はみんな損をした感じ」になってしまった。

マイナス評価はされても偉いとは言わない。無駄死になった。

日本人を代表して死んだ人がこういう扱いでは、誰でも責任をとろうとは思わない。勇者として扱わなければおかしい。

名誉ということ

今の日本は実利社会になりすぎている。人間社会には実利では計りしれない価値のあるものがある。名誉というのは実利を超越した観念であり、名誉という価値を認めなくてはならない。名誉という概念がなければ「恥じを知る」という概念も生きてこない。

戦死の道を選んだ人を称えない限り、其の社会は「奴隷の社会」になってしまう。「武」というのは命懸で名誉を守る事です。「武」なき社会に名誉なし。戦後の日本では命がけで名誉を守ることが軽るんじられ卑しめられ続けてきた。

ある処刑された人は残された妻に対して、子供の将来について男子は黙って百姓をさせろ決して進学させるな。と言ひ残しています。

進学すれば組織人としての仕事に就きたくなるだろう。組織人になれば上からの命令には嫌でも従わなければならない。自分は組織の命令通り生きて来てこの結果になった。子供だけにはこの思いをさせたくない。

以下の各書籍から当地に関する記事のみ抜粋させて頂きました。
青木氏、村田氏、ウォーラン氏、トミー氏など多くの皆さんから資料提供頂きました。
感謝致します。

| | | |
|-------------|-------------|---------------|
| 「孤島の土となるとも」 | 講談社 | 岩川 隆 |
| 「追憶」 | 375大隊戦友会 | 青木次郎 |
| 「読売」 | 東京裁判50周年特大号 | 1998/10 読売新聞社 |
| 「誰が国賊か」 | クレスト社 | 谷沢永一 渡辺昇一 |
| 「セレベス戦記」 | 図書出版社 | 奥村 明 |

朝日新聞

縮小版

これは、昭和17年から昭和18年の2年間分の朝日新聞 縮小版から、ミナハサ及び北スラウェシに関する記事を抜粋したものです。

縮小版のコピーのコピーになり非常に読みづらいので、記事の一部をタイプ・アウトしました。

□□□とあるのは、判読不可能な文字。

○○○とあるのは、機密保持のためか、原文自体が伏字になっているものです。

タイプ・アウトにあたっては、なるべくオリジナルに沿って、漢字を旧字体にしました。(據點、英國、應答など)
ワープロ内に無い旧漢字は、新漢字に直しました。

【川井 雄二】

朝日新聞

本誌の発行所 東京市丸の内區千代田一丁目一番地

陸上前敵に印蘭

タラカン島の敵忽ち降伏
セレベス島メナドを占領

敵海空基地奪取に起つ

【大本営発表】 十二日午後六時、帝國陸海軍部隊は緊密なる協同の下に一月十一日未明、蘭領ボルネオ、タラカンに、又帝國海軍特別陸戦隊はセレベス島メナドにそれぞれ敵前上陸に成功し、十二日タラカンの敵は我に降伏しメナドは我軍に占領せられたり右は我比島方面及び英領ボルネオ方面の敵定作戦を妨害する敵航空基地並に海軍基地を奪取せんとするものなり

和蘭の敵性行為の破砕 政府 聲明

【大本営発表】 十二月十二日午後六時、帝國陸海軍部隊は緊密なる協同の下に一月十一日未明、蘭領ボルネオ、タラカンに、又帝國海軍特別陸戦隊はセレベス島メナドにそれぞれ敵前上陸に成功し、十二日タラカンの敵は我に降伏しメナドは我軍に占領せられたり右は我比島方面及び英領ボルネオ方面の敵定作戦を妨害する敵航空基地並に海軍基地を奪取せんとするものなり

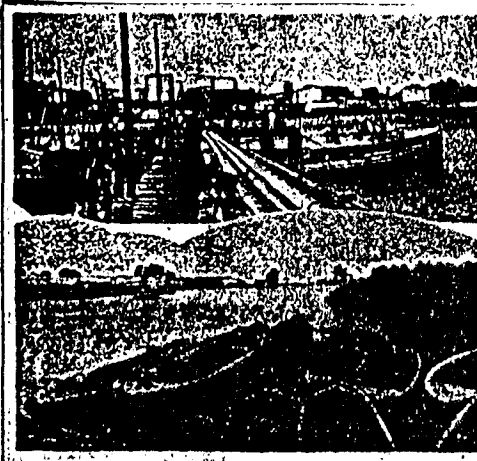
帝國政府聲明

【大本営発表】 十二月十二日午後六時、帝國陸海軍部隊は緊密なる協同の下に一月十一日未明、蘭領ボルネオ、タラカンに、又帝國海軍特別陸戦隊はセレベス島メナドにそれぞれ敵前上陸に成功し、十二日タラカンの敵は我に降伏しメナドは我軍に占領せられたり右は我比島方面及び英領ボルネオ方面の敵定作戦を妨害する敵航空基地並に海軍基地を奪取せんとするものなり

ミナハサ沖合で海戦

我が輸送船団、敵を撃破

【大本営発表】 十二月十二日午後六時、帝國陸海軍部隊は緊密なる協同の下に一月十一日未明、蘭領ボルネオ、タラカンに、又帝國海軍特別陸戦隊はセレベス島メナドにそれぞれ敵前上陸に成功し、十二日タラカンの敵は我に降伏しメナドは我軍に占領せられたり右は我比島方面及び英領ボルネオ方面の敵定作戦を妨害する敵航空基地並に海軍基地を奪取せんとするものなり



港ドナメ(橋橋油庫)ンカラタし陸上が軍皇日



セレベス島 本島は北緯七度、東經一百二十二度の間にあり、人口は約二百五十万人に達する。主要産物は世界的なコブラ、香料、珈琲、貝類、畜産物、ニッケル、コバルト、クロム、マンガンの鉱山資源がある。

セレベス島

セレベス島は大スタダ群島中の島嶼、の積は十八万九千五百二十五平方キロ、朝鮮より小さく、峽長な四條の半島より成る奇形島で山脈、中央山脈はスマトラ、ジャワと縦断する火山脈にして支脈を各方面に分派し、特に北半島に山岳が多い。

メナド

メナドはミナハサ地方の主邑で地方物産の集散地、従来は軽巡洋艦、掃海艇が入港することもあり、メナド河口に位し、人口三万、赤道直下ではあるがセレベス第一の健康地であり、市内には温泉の湧出もある。輸出品としてはコブラを主とし、戦前日本郵船、南洋海運の寄港地であった。

敵性蘭印の面上に一撃

米英追従に狂奔

總督府首腦は恐日病



氏見

米英追従に狂奔
總督府首腦は恐日病
米英追従に狂奔
總督府首腦は恐日病



旗幟港ニカラタと(上)面市ドナム

南洋での樂園

反政廳の色濃きメナド

談氏南田

南洋での樂園
反政廳の色濃きメナド

南洋での樂園
反政廳の色濃きメナド
南洋での樂園
反政廳の色濃きメナド

南洋での樂園
反政廳の色濃きメナド
南洋での樂園
反政廳の色濃きメナド

南洋での樂園

反政廳の色濃きメナド

米英の走狗と化したまま帝國の打ち鳴らす警鐘にも目醒めぬ
蘭印に対し帝國の槌は遂に下され、セレベス島のメナドと蘭
印ボルネオのタラカンに相前後して精銳の敵前上陸が決行さ
れた。そのメナドとはいかなる市か——セレベスに在十五
年の南洋貿易大阪支店長稲垣辰男氏に話を聞く。

邦人はセレベス全島で六百人。メナド地区だけで三百二十
人くらゐました。表面的には蘭印の政廳も圧迫を加えたわ
けではありませんが危険を感じて戦前どしどし引きあげ、い
まのこっているのは百十一名、うち婦女子が六、七名となっ
ています。

住民は親日的で反政廳の空氣は□□独立運動さへ二時三時
ありましたが結局知識のレベルも低く実力もないので抑へら
れています。

メナド地区の住民は俗にミナハサ人といはれる。これは一説
には日本人の子孫とも□されるほどで色は白く日本人そっく
りの顔をしています。

住民のうちでは自他共に許す最高級のA種で文化の程度も進
んでゐます。従つて官吏や事務員になる住民はこのミナハサ
人に限るのですが何から何までオランダ人の真似ばかりで私
たちの雇つてゐたミナハサ人の女中なども日曜日にはハイ
ヒールを履き教會に出掛けると言つた調子でした。

邦人は明治の終頃には相当来ていたやつです。水産業が多
く今でも邦人の半分は鯉漁業に従事し年に百五十万トン水揚
げしてゐます。資源は實に豊富で金、銅、ニッケル、鉄なん
でもあります。

大資本で開發すれば立□に採算がとれます。その他コブラ
玉蜀黍、茶、コーヒー皆よく、米は日本□□の技術をもつて
すれば自然的条件に恵まれたところですから二毛作も可能で
す。

□□は非常によく七十度から八十度でそれに猛獸、□疫も
ありませんからまさに南洋の樂園です。
日本人の進出には最も適した島でせう。

